

第3班

『中国・朝鮮の旧日本租界』 共同研究

(1) 共同研究員名

研究代表者：大里浩秋

共同研究員：孫安石 内田青蔵 村井寛志 中村みどり 金容範 須崎文代 彭国躍

研究協力者：富井正憲 吉川良和 栗原純 田島奈都子 菊池敏夫 齋藤多喜夫 陳雲蓮

(2) 研究目的

中国・朝鮮の旧日本租界研究をメインテーマにした第1期・第2期の活動において、共同研究者各自の関心に基づく調査や研究報告を行い、収集した資料も相当量に上り、取り組んだ関連テーマも多様な広がりを示している。

しかし、とくに第2期で各自の研究に委ねる状況にとどまった点を克服して、第3期では、資料の整理と現況調査を継続しつつ、その中で、現地で日本人が発行した新聞、雑誌類について分担して調査を行い、これまでの研究の締めくくりとなるような共同研究の成果を公刊する計画である。

(3) 全体の総括——3年間の活動を振りかえって

この3年間で取り組んだことを5点に分けて紹介しつつ、その過程で感じたこと、やり残したことなどに触れる。

a. 旧日本租界の現状調査について

漢口・沙市・杭州、および日本租界は置かなかったが戦前多数の日本人が住んだ上海について、調査を実施した。漢口・沙市に出かけた際には、かつてイギリス租界が置かれた九江と日中戦争期に日本人が侵入した保養地である廬山も合わせて見学し、「九江・沙市・漢口の旧租界地を回っての報告」にまとめた（『非文字資料研究センターニューズレター』（以下『ニューズレター』）No.36 P14）。また、上海については、日本人が経営した紡績工場とその従業員の住宅を調査して、『ニューズレター』No.34で「上海の在華紡研究のための基礎調査」と題して報告した。その結果、沙市の旧日本租界地区は、街から離れた場所に位置することもあって開発から取り残された状態のままであるのを除いて、各地で開発が進み、当時の建物も全部ではないが保存され現代風に再生されて利用されていることが分かった。今回初めて調査した沙市を加えて、日本の租界だった場所は廈門・福州を除き一度は調査したことになったが、収集したまま利用できていない関連資料がまだ残っており、また、朝鮮の事情についての研究は初歩のままにとどまっている点が、今後の

課題となる。

b. 現地で発行した新聞・雑誌に関する調査研究について

第2期までに個別に調査・研究してきた新聞・雑誌に関する成果について、第3期では研究会ないし公開研究会の場で数回報告・討論を行った。そのうち比較的大きな研究会としては、本学で開いた第43回研究会「近代中国における日本人経営の新聞の研究」(『ニューズレター』No. 33 P 2)と第46回研究会「図像資料の研究を考える——戦争と生活」、中国広州市で開いた「中日関係と広州近現代史研究」第44回研究会 国際シンポジウム(『ニューズレター』No. 33 P 8)がある。但し、各研究会で気づかされたさらに深めるべき課題は残っており、まだ扱うべくして扱っていない対象もある。

c. 横浜外国人居留地研究会との協力について

横浜および神戸・長崎・函館・築地・大阪などには、幕末に開港したことに伴い外国人居留地が置かれ、1899年に廃止された後も、その文化的・社会的な影響が残ることとなった。そうした各種の影響を考える研究会が横浜にもあり、彼らの研究に学び協力する関係が第2期に生まれて第3期に引き継がれ、具体的には2014年に横浜で開催された第7回外国人居留地研究会2014全国大会で「開国160周年、日本近代化の扉を開く」と題するシンポジウムを共同で準備し開催することで実現した。さらに、2カ月に1回開く研究会に参加し、毎年1回開く全国大会(15年度は神戸、16年度は函館で開催)にも参加した。こうした協力は、中国・朝鮮における日本租界の各種状況と比較する意味でも役立つことで、今後も継続すべきである。

d. 他の研究班と合同で台湾・中国の研究者と国際シンポジウムを開いたことについて

第2期までは実施したことのない他の研究班と合同した国際シンポジウムを、台湾大学と浙江工商大学の協力を得てそれぞれ実施することができた(台湾大学との国際シンポジウムについては、『ニューズレター』No. 36 P 2「帝国日本と台湾の眼差し——非文字資料の利用」で報告)。それによって、他班の研究者の関心を知り共有することができ、学外の研究者との間にも関心を共有できる機会となり、今後とも積極的に追究すべきではないかと感じた。

e. その他、近藤恒弘氏に寄贈していただいた天津関係の絵葉書他の資料、新島淳良氏収集の中国文化大革命期のポスターについては、分類・整理の段階にとどまっており、今後分析・公開できるように作業を進める必要がある。

(4) 租界班の研究会開催記録

○2014年度

第42回研究会

日時：4月18日(金) 15:00~17:30

場所：横浜キャンパス 21 号館 405 会議室

報告：(1) 「横浜の外国人居留地——上海租界との比較を念頭に」 齋藤多喜夫（横浜外国人居留地研究会）

(2) 「漢口の日本人居留民」 津久井弘光（元青森県立田名部高校教諭）

第 43 回研究会 公開研究会『近代中国における日本人経営の新聞の研究』

日時：6 月 21 日（土）13：00～17：30

場所：横浜キャンパス 1 号館 804 会議室

報告：(1) 「上海新報と修文書館について」 板倉雅宣（タイポグラフィ学会）

(2) 「上海新報と日本人コミュニティー」 高綱博文（日本大学）

(3) 「上海新報と日本の外務省」 孫安石（神奈川大学）

(4) 「泰東日報（大連）——都市空間からの対日本言説——」 橋本雄一（東京外国語大学）

(5) 「順天時報（北京）とその社説について」 青山治世（亜細亜大学）

コメント：大里浩秋（神奈川大学）、関智英（明治大学）、周武（上海社会科学院歴史研究所）* 書面による参加



第 44 回研究会 公開研究会『中日関係と広州近現代史研究』

共催：広東外語外貿大学

日時：6 月 28 日（土）9：30～18：00

場所：中国・広東外語外貿大学

報告：(1) 「20 世紀初頭在中山大学学習的亜州留学生」 曹善玉（中山大学）

(2) 「広東省の来日留学生関連資料の紹介 1920 年代」 孫安石（神奈川大学）

(3) 「吉野作造の満蒙權益論」 趙曉靚（広東外語外貿大学）

(4) 「二つの中国認識——吉野作造と内藤湖南」 朱琳（神奈川大学）

(5) 「中国海関史研究の新たな動向」 濱下武志（中山大学）

(6) 「淪陥時期広州的貿易統制政策研究」 張伝宇（暨南大学）

(7) 「新中国成立前後の難民流入と港英政府の対応 1949 年」 村井寛志（神奈川大学）

(8) 「日本軍占領期間の広州における新聞出版」 韋立新（広東外語外貿大学）

(9) 「雑誌『兵隊』1939 年～1944 年」 大里浩秋（神奈川大学）

第 45 回研究会

日時：7 月 18 日（金）15：00～17：30

場所：横浜キャンパス 21 号館 405 会議室

- 報告：(1) 「集落から都市へ：上海の都市形成原理」陳雲蓮（拓殖大学日本文化研究所）
 (2) 「中国民国期の商業ポスターの実態——中国語表記のポスターは果たして100% 中国製なのか?!」田島奈都子（青梅市立美術館）

第7回外国人居留地研究会 2014 全国大会 横浜大会

シンポジウム「租界と居留地——都市と建築の視点から——」

主催：全国外国人居留地研究会横浜大会実行委員会（横浜外国人居留地研究会／神奈川県非文字資料研究センター租界班）

日時：10月5日（日）9：15～11：45

場所：横浜市開港記念会館1号館（中区本町1-6）

- 報告：(1) 「中国における日本租界がたどった道」大里浩秋（神奈川大学）
 (2) 「横浜居留地の初期洋風建築について」内田青蔵（神奈川大学）
 (3) 「上海港湾研究——水先案内人（PILOT）協会を事例として」孫安石（神奈川大学）
 (4) 「横浜外国人居留地と赤煉瓦——近代遺跡調査の成果から」青木祐介（横浜都市発展記念館）



第46回研究会（拡大例会）『図像資料の研究を考える——戦争と生活』

主催：神奈川県非文字資料研究センター租界班、京都大学 CIAS 共同利用・共同研究プロジェクト・複合研究ユニット「非文字資料の共有化と研究利用」&個別研究ユニット「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」

共催：敬和学園大学・戦争とジェンダー表象研究会（科研基盤(C)「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」）

日時：12月6日（土）13：00～18：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

- 報告：(1) 「イギリスの写真雑誌『ピクチャー・ポスト』に見る第二次世界大戦下の「ニッポン」」杉村使乃（敬和学園大学）
 (2) 「占領者日本の「支那」女性像と抗戦中国の女性像：『北支画刊』・『北支』と『良友』から考える」松本ますみ（室蘭工業大学）
 (3) 「雑誌『兵隊』（1939年～1944年）の図像資料について」大里浩秋（神奈川大学）
 (4) 「戦前期の家事教科書にみる日本の家庭用台所の変容」須崎文代（神奈川大学）

コメント：加納実紀代（元敬和学園大学）、池川玲子（実践女子大学）、孫安石（神奈川大学）、内田青蔵（神奈川大学）、村井寛志（神奈川大学）

○2015年度

第47回研究会

主催：非文字資料研究センター租界班

共催：学内共同研究『良友』画報研究班

日時：4月28日（火）16：00～18：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

報告：(1) 「上海社会科学院歴史研究所の活動紹介と上海におけるユダヤ人難民の研究」王健（上海社会科学院・歴史研究所副所長）通訳（葛濤、上海社会科学院研究員）

(2) 「上海の在華紡研究について——建築・生活・歴史」須崎文代（神奈川大学）

(3) 2015年・租界班の活動予定

第48回研究会

日時：6月26日（金）16：00～18：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

報告：(1) 「東亜同文会の機関紙『東亜時論』と朝鮮の租界関連記事について」金容範（神奈川大学非文字資料センター客員研究員）

(2) 「戦前期日本のポスターの中の植民地台湾のイメージ」田島奈都子（青梅市立美術館）

(3) 「上海の内外綿株式会社の労務管理」芦沢知絵（法政大学兼任講師）

第49回研究会

日時：9月25日（金）16：00～18：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

報告：(1) 「横浜と上海——港則比較研究」齋藤多喜夫（横浜外国人居留地研究会）

(2) 「上海の港湾研究のための予備報告」孫安石（神奈川大学）

第50回研究会

日時：11月6日（金）16：00～18：00

場所：横浜キャンパス1号館308会議室

司会：吉川良和（非文字資料センター研究協力者）・山口建治（神奈川大学）

報告：(1) 「上海の京劇・新劇の女形について」田村容子（福井大学）

(2) 「蘇灘芸人林歩青と上海演劇改良運動」森平崇文（神戸学院大学）

神奈川大学 生涯学習・エクステンション講座

都市と建築、そして、文化を楽しむ（神奈川大学非文字資料研究センター主催講座）

『横浜と上海』

第1回 2015年10月19日 「横浜居留地の成立と発展」齋藤多喜夫

第2回 2015年10月26日 「横浜とモダン建築の登場——洋館を楽しむ」内田青蔵

- 第3回 2015年11月2日 「近代中国と開港都市
— 租界の登場」大里浩秋
- 第4回 2015年11月9日 「上海の歴史変遷と都
市計画— 大上海都市計画」孫安石
- 第5回 2015年11月16日 「花開く上海の消費文
化— 南京路と百貨店」菊池敏夫
- 第6回 2015年11月30日 「広告ポスターに見る
中国と日本」田島奈都子



国際シンポジウム『帝国日本と台湾の眼差し— 非文字資料の利用』

共催：非文字資料研究センター・台湾大學歴史系

日時：12月11日（金）10：00～16：00

12月12日（土）10：00～12：30

場所：台湾大学文学院文20教室

1日目：帝国日本と非文字資料（司会：孫安石（神
奈川大学））

報告：(1) 「台湾『パイワン族の探訪記録』（1937）
の現地上映会— 現代に生きるアチック
フィルム・写真」高城玲（神奈川大学）

(2) 「戦時中の紙芝居と宣伝— 日本と台湾の場合」安田常雄（神奈川大学）

(3) 「戦前期日本のヴィジュアル・デザインにおける台湾イメージ」田島奈都子（青梅市立美
術館）

(4) 「帝国日本と台湾の農薬広告」呂紹理（台湾大学）

(5) 「歴史録音作為史料：以1930年代張福興的勝利唱片録音為例」王桜芬（台湾大学）

(6) 「古鼎形象的現代轉化：中日戦争（1937-1945）中的大鼎」許雅惠（台湾大学）

2日目：帝国日本と台湾のイメージ（司会：呂紹理（台湾大学））

報告：(1) 「韓半島における日本人居留地と住居建築」金容範（神奈川大学）

(2) 「メガ産業と企業神社— 台湾における神社創立を全体としてとらえるために」金子展也
（神奈川大学）

(3) 「日治時期台灣的神社於戦後的處理與研究」蔡錦堂（台湾師範大学）



○2016年度

第51回研究会

日時：5月6日（金）15：00～17：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

報告：(1) 「九江、武漢、沙市の租界調査について」内田青蔵、大里浩秋、孫安石（神奈川大学）

(2) 第3期3年目の研究終了と今後の課題

- 『非文字資料研究』、『非文字資料研究センター ニュースレター』の担当分担など
- 第4期の研究課題とテーマ

国際シンポジウム『東アジアにおける非文字資料研究』

共催：非文字資料研究センター・浙江工商大学東亜研究院

日時：2016年7月2日（土）9：00～17：00

場所：中国・浙江工商大学東亜研究院

【第一部】

「中国明代文献中的日本像」陳小法（浙江工商大学東亜研究院）

「《兩點千字文図解》所配図像解析」張新朋（浙江工商大学東亜研究院）

「『浙江教育官報』と日本」許海華（浙江工商大学東亜研究院）

「中日古代祭禮図像研究」姚瓊（浙江工商大学東亜研究院）

「宋风石刻在日本的传播」郭萬平孔媛（浙江工商大学东方语言文化学院）

コメント：鈴木陽一（神奈川大学）、大里浩秋（神奈川大学）、熊谷謙介（神奈川大学）

【第二部】

「日本常民生活絵引と中国江南編」鈴木陽一（神奈川大学）

「中国の神社跡地について」稲宮康人（神奈川大学）

「戦時下紙芝居研究——「戦意高揚紙芝居コレクション」資料の概要、研究の現状・展望——」新垣夢乃（狛江市教育委員会）

「『18世紀ヨーロッパ生活絵引』から見る都市の祝祭空間」熊谷謙介（神奈川大学）

「租界研究で分かったこと、今後の課題」孫安石（神奈川大学）

コメント：陳小法（浙江工商大学）、張新朋（浙江工商大学）、許海華（浙江工商大学）、中島三千男（神奈川大学）

第52回研究会

日時：7月15日（金）15：00～17：00

場所：横浜キャンパス1号館308-1会議室

報告：(1) 「京城『モダン』の地図を読む」富井正憲（韓国・漢陽大学）

(2) 「東亜同文会の雑誌に載る朝鮮租界関連の記事」大里浩秋（神奈川大学）

(3) 第3期終了と第4期に向けた研究課題の検討

第53回研究会

日時：9月23日（金）15：00～17：00

場所：横浜キャンパス1号館301会議室

報告：(1) 「百年前の上海の言語景観」彭国躍（神奈川大学）

(2) 「連環画のおしゃべりな〈顔〉」武田雅哉（北海道大学）

(3) 第4期の課題——研究課題とテーマ

第54回研究会

日時：12月16日（金）15：00～17：00

場所：横浜キャンパス1号館308-1会議室

報告：(1)「横浜居留地と近代警察制度」鈴木康夫（横浜外国人居留地研究会）

(2)「開港場横浜における居留地行政と感染症対策1859-1899」市川智生（長崎大学）

2016年度 第4回 公開研究会

『歴史研究と非文字資料研究の対話（2）——日本と台湾を事例に』

日時：2017年3月4日（土）13：00～18：00

場所：横浜キャンパス17号館215会議室

第一部 非文字資料研究センターの取り組み

(1)「写真のポスト・トゥルース性——非文字資料としてのパリ・コミュニケーション表象」熊谷謙介（神奈川大学）

(2)「非文字資料としての地図の利用——別荘地軽井沢開発史研究を中心として」内田青蔵（神奈川大学）

(3)「租界史研究における非文字資料利用の意味」大里浩秋（神奈川大学）

第二部 歴史研究と非文字資料

(4)「方法としての音——そのアーカイブ化をめぐる〈近代知〉への断想」山内文登（台湾大学、音楽学研究所）

(5)「日本植民地支配下における仏教建築様式の2、3の事例」黄蘭翔（台湾大学、藝術史研究所）

(6)「大学博物館所蔵の脱植民地化の可能性——台湾大学人類学博物館を事例に」童元昭（台湾大学、人類学部）